

新着図書からおすすめ の5冊



毎週火曜日は、新着図書の配架日です。本日9月19日（火曜日）の新着図書の中からおすすめの本を紹介します。インターネット予約・貸出は、9月26日（火曜日）からです。

『悠々として、人生を降りる』

川北 義則／著、PHP研究所／刊、請求記号：159.7/Ka,94

内容：「ちょっと譲る」で何事もうまくいく。昔の会社の名刺は捨てること。物事は「グレー」のままでもいい。親子は離れて暮らすべきだ…。「下り坂」の人生後半を、無事に愉しく歩いていく心得を説く。

著者紹介：1935年大阪生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。日本クリエート社を設立。出版プロデューサー。生活経済評論家。著書に「孤独を悩むな。」など。

『恐竜探偵足跡を追う』

アンソニー・J.マーティン／著、文藝春秋／刊、請求記号：457.8/Ma,53

内容：足跡や巣穴や糞といった、恐竜の行動の痕跡が残された化石(生痕化石)は、骨よりはるかに多くのことを教えてくれる。史上初めて恐竜の巣穴の化石を発見した学者が、探偵のように恐竜の足跡を追う。

著者紹介：エモリー大学教授。古生物学者。地質学者。生痕学者。地質記録に残る最古の恐竜の巣穴を発見。

『赤ちゃんは神様』

関 洋子／著、講談社エディトリアル／刊、請求記号：599/Se,24

内容：幼稚園の副園長として7000人を超える子供たちを育ててきた著者が、育てた中で感じたこと、考えたこと、気づいたことを、お母さんたちに向けて綴る。

『浮世絵細見』

浅野 秀剛／著、講談社／刊、請求記号：721.8/A,87

内容：浮世絵のサイズはどう決まる？ 絵師は舞台を見て役者絵を描いたの？ 浮世絵師の収入や住まいは？ 異版はなぜ生まれたの？ 「そう言えば知らない」浮世絵の謎を解き明かす。浮世絵研究の現状や課題についても論じる。

著者紹介：1950年秋田県生まれ。立命館大学理工学部卒業。千葉市美術館学芸課長を経て、大和文華館館長。あべのハルカス美術館館長。国際浮世絵学会理事長。著書に「浮世絵は語る」など。

『クラシックコンサートをつくる。つづける。』

平井 満 他／著、水曜社／刊、請求記号：760.6/H,64

内容：ホールだけがクラシックコンサートの場合ではない。華やかさとは正反対の手法でクラシック音楽の命脈を保ってきた、地域に根ざしたコンサートの主催者たちを訪ね、新しい文化事業のあり方とまちづくりを提言する。

著者紹介：鵜沼室内楽愛好会を立ち上げ、地元のレストランを会場とするサロン・コンサートを企画・運営。

佐賀県立図書館 〒840-0041 佐賀県佐賀市城内二丁目1-41

Tel 0952-24-2900 Fax 0952-25-7049 E-mail saga-kentosyo@pref.saga.lg.jp